

第2章

東日本大震災の被害

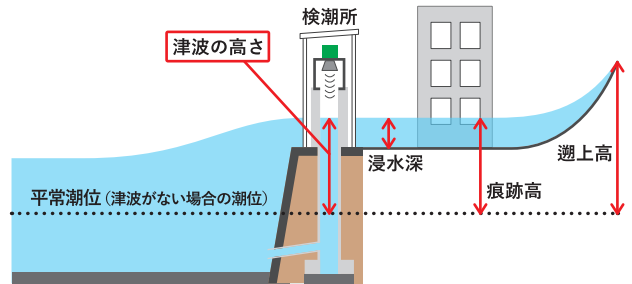
震災の概要

平成23年3月11日(金)午後2時46分に三陸沖(牡鹿半島の東南東約130km付近)の深さ24kmを震源とする地震が発生しました。

この時の地震の規模はマグニチュード9.0で、当市では震度6弱を観測し、震度4以上を観測した時間が約160秒にも及ぶ大きな地震でした。

この地震によって発生した津波は東北地方の太平洋沿岸を中心として北海道から沖縄の全国各地、さらに海外(アメリカ、メキシコ、チリ等)でも観測され、当市の津波の高さ(痕跡高)は最大16.7mでした。

また、陸地を駆け上がる津波の高さである遡上高は、綾里湾で局所的に40.1mとして観測されています。



第一波観測	14:54	-0.2m	当日気象庁発表
最大観測	15:15 15:18	3.2m以上 8.0m以上	当日気象庁発表 3/23 気象庁発表

※第1波の観測値は、-1.0m(時刻不明)に後日変更
出典:気象庁

被害の概要

津波・浸水被害

津波による浸水区域は大船渡湾周辺、盛川の河口から上流のJR盛駅周辺まで広がりました。

このような中、浸水面積のうちの半数が建物用地(住宅地・市街地等で建物が密集しているところ)が浸水しており、当市の中心市街地を形成していたJR大船渡線の盛駅、大船渡駅周辺を含むこれらの地図では最大浸水深13.0mの津波が押し寄せ、浸水範囲の土地利用別面積の割合を見ると、「建物用地」が48%と半数を占める程の甚大な被害を受けています。

三陸町綾里の綾里川、三陸町越喜来の浦浜川、三陸町吉浜の吉浜川の河口、また、その周辺でも浸水区域が広がり、漁港施設の水没・倒壊、小中学校の浸水や三陸鉄道南リアス線(現:三陸鉄道リアス線)線路の破損・流出等、市内各地で被害をもたらしました。



■表 浸水範囲の土地利用別面積

項目	建物用地・幹線交通用地		その他の用地	田・その他の農用地・森林・荒地・ゴルフ場	河川地及び湖沼・海浜・海水域	全体
		うち建物用地				
浸水面積	4 km ²	4 km ²	1 km ²	2 km ²	1 km ²	8 km ²
浸水面積構成比	49%	48%	15%	24%	12%	-

出典:国土地理院

人的被害

地震・津波により、当市で死亡が確認された死者数は340人、他市町村で被災された人を含めた市民の死者数は354人、行方不明者数は79人、震災関連死の人数は83人でした。(※死者は、死亡届が出されたものを集計)

地区別の死者・行方不明者数の合計は大船渡町が156人と最も多く、ほかにも三陸町越喜来、末崎町、赤崎町と沿岸の地区で多くなっています。

建物被害

地震・津波による当市の住家の被害は合計5,592世帯、そのうち全壊は2,791世帯でした。

地区別の被害世帯数の合計は大船渡町が1,805世帯で最も多く、赤崎町、末崎町、盛町、三陸町越喜来等でも多くなっています。

インフラ・ライフラインの被害

国道45号等の主要道路は津波により一部浸水し、ガレキによって寸断されました。

こうした中、三陸縦貫自動車道は地震による被害があったものの、高台に整備されていたため、津波の浸水被害を免れ通行可能でした。また、地盤沈下は赤崎町生形付近で最大で-0.76mの沈下を観測しました。

JR大船渡線は全24駅のうち6駅が津波により流失し、三陸鉄道南リアス線(現:三陸鉄道リアス線)では、盛駅周辺、甫嶺駅周辺、甫嶺～三陸駅間の泊地区で津波が大きく線路を越え、線路流失、築堤損壊となり、甫嶺駅では津波の越流によるホーム下の洗掘の被害があり、また、地震により盛駅～陸前赤崎駅間の盛川橋梁が大きく損傷したほか、陸前赤崎駅のホームの陥没・擁壁の損傷、恋し浜駅のホーム沈下の被害がありました。

電気、電話、水道及び下水道の各施設等が直接的に被災したため、長期に渡りライフラインが寸断されましたが、ガスはLPG充填所が被災を免れ、早期に稼働再開・使用可能となりました。

産業関連の被害

平成23年8月31日時点では、市内事業所の約54%にあたる1,416事業所が被災し、301.4億円の被害額(岩手県推計)となり、また、農林業関係では農地浸水、菌床しいたけ施設流失、農業用水路破損等により23.4億円の被害額となりました。

水産業の被害は漁船約3,000隻やワカメ・ホタテ・カキ等の養殖施設・養殖生産物、アワビ種苗約265万個が流出、魚市場等施設的全壊(水産関係被害)、漁港の水没・倒壊(漁港施設被害)や、各処理場・管路の浸水・破損(漁業集落排水施設被害)があり、被害額は約507億円に上りました。

復興期における当市の状況

東日本大震災が発生した平成23年の人口は前年比で1,435人減と、急激な減少となり、当市の全人口も4万人を割り、平成27年以降も減少傾向が続き、令和2年には3.5万人(12月末時点)となっています。

■表 地区別の被害(死者、行方不明者数)

地区	死者	行方不明者	計
盛町	15	0	15
大船渡町	137	19	156
末崎町	42	22	64
赤崎町	52	6	58
猪川町	8	4	12
立根町	6	1	7
日頃市町	1	0	1
三陸町綾里	24	3	27
三陸町越喜来	67	21	88
三陸町吉浜	2	3	5
計	354	79	433

(平成27年3月31日現在)

(単位:人)

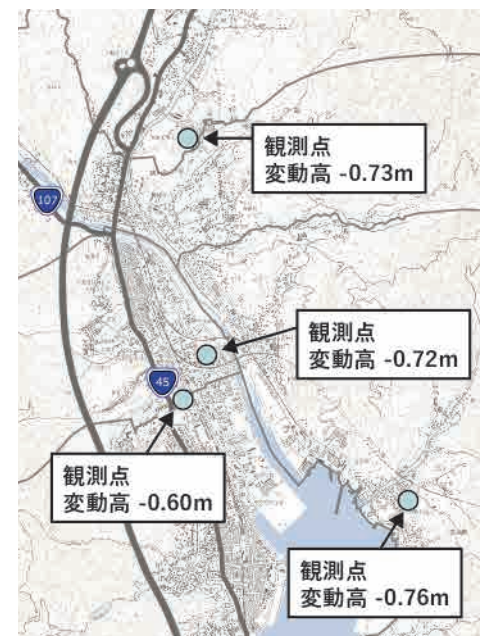
■表 地区別の被害(建物被害世帯数)

地区	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	計
盛町	87	110	224	188	609
大船渡町	1,113	135	175	382	1,805
末崎町	509	55	93	223	880
赤崎町	540	86	108	183	917
猪川町	1	1	12	168	182
立根町	1	3	12	211	227
日頃市町	0	1	1	40	42
三陸町綾里	145	14	49	122	330
三陸町越喜来	390	22	37	87	536
三陸町吉浜	5	3	6	50	64
計	2,791	430	717	1,654	5,592

(令和2年9月30日現在)

(単位:世帯)

■図 大船渡市内の観測地点別沈下量



■表 水産業の被害額

項目	被害額
水産関係被害	315億9903万円
漁港施設被害	180億8500万円
漁業集落排水施設被害	9億6700万円
合計	506億5103万円

(平成23年8月31日現在)